

2020年12月28日 発行

信頼の国産ヘッドセットブランド

enterprise

環境経営レポート

2020年度版

対象期間

〈2020.01.01～2020.12.31〉



エコアクション21
認定番号0001360

株式会社 長塚電話工業所

est. 1937 TOKYO

もくじ

1. 環境経営方針	P.3
2. 事業活動の概要	P.4
3. EA21 推進組織図	P.5
4. 環境経営目標とその実績 (環境負荷実績と環境目標比較)	P.6
5. 二酸化炭素の排出抑制	P.7
6. 焼却処理廃棄物の排出抑制	P.9
7. 水資源投入量の抑制	P.11
8. 化学物質の管理の徹底	P.12
9. 製品に関する環境配慮	P.13
10. 業務におけるQCDの向上	P.15
11. 5S4定の徹底	P.18
12. 環境関連法規制の順守状況 (外部からの苦情等について)	P.19
13. 代表者による全体の取組状況の評価と見直し	P.20

1. 環境経営方針

企業理念

株式会社 長塚電話工業所は、長年にわたりコールセンター業界等へのコミュニケーションツールの提供を行っています。弊社は大手企業を持つレガシー資産を持ちませんが、反面身の軽さを中小企業の武器として、世の中の動向を的確に把握し、独自の分野を開拓してまいります。

弊社はエコ的視点をバックボーンとしてユニークな製品作りの研究と開発に努め、お客様に喜んでいただける製品やサービスを提供してまいります。それこそが我々にとっての環境活動であると認識して、社員全員が日常活動としての環境活動を実践し、継続的改善に邁進してまいります。

行動指針

1. 企業理念に基づき、以下の環境に配慮した活動に重点を置き、環境活動の推進及び継続的改善に努めます。
 - ① 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
 - ② 業務におけるQCDの向上
 - ③ 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量の削減
2. 環境に関連する法令及び条例、協定と当社が同意するその他要求事項を遵守します。
3. 環境経営方針を社内に周知徹底するとともに、環境活動の目標達成に向けて社員全員が行動できるように努めます。
4. 環境活動結果は環境経営レポートとして社外に公開します。

2020年1月1日 制定

株式会社 長塚電話工業所
代表取締役 長塚 将

2. 事業活動の概要

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 長塚電話工業所
代表取締役 長塚 将

2. 所在地

【本社】

〒152-0004

東京都目黒区鷹番2-11-1

EA21 認証・登録範囲

【高津営業所】(2007年2月26日 認証・登録)

〒213-0031

神奈川県川崎市高津区宇奈根643-3

【高津営業所 分室】(2007年2月26日 認証・登録)

〒213-0031

神奈川県川崎市高津区宇奈根705-2

【西日本営業所】(2013年2月26日 認証・登録)

〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-9-11

アイ・プラス江戸堀 2階



高津営業所



高津営業所 分室



西日本営業所

3. 環境管理責任者

環境管理責任者 技術部 部長 櫻井 孝幸

担当者 EA21推進事務局 三田 優介

連絡先 電話 044-850-1533

FAX 044-850-1534

4. 事業内容

情報通信機器の製造販売及びネットワーク関連システム販売

5. 事業の規模(2020年12月28日現在)

1)従業員数 20名(うち派遣社員2名)

2)敷地面積 延べ419m²

3)売上高 945百万円

3. EA21 推進組織図

当社のEA21(エコアクション21)の運用組織を、以下の通り定める

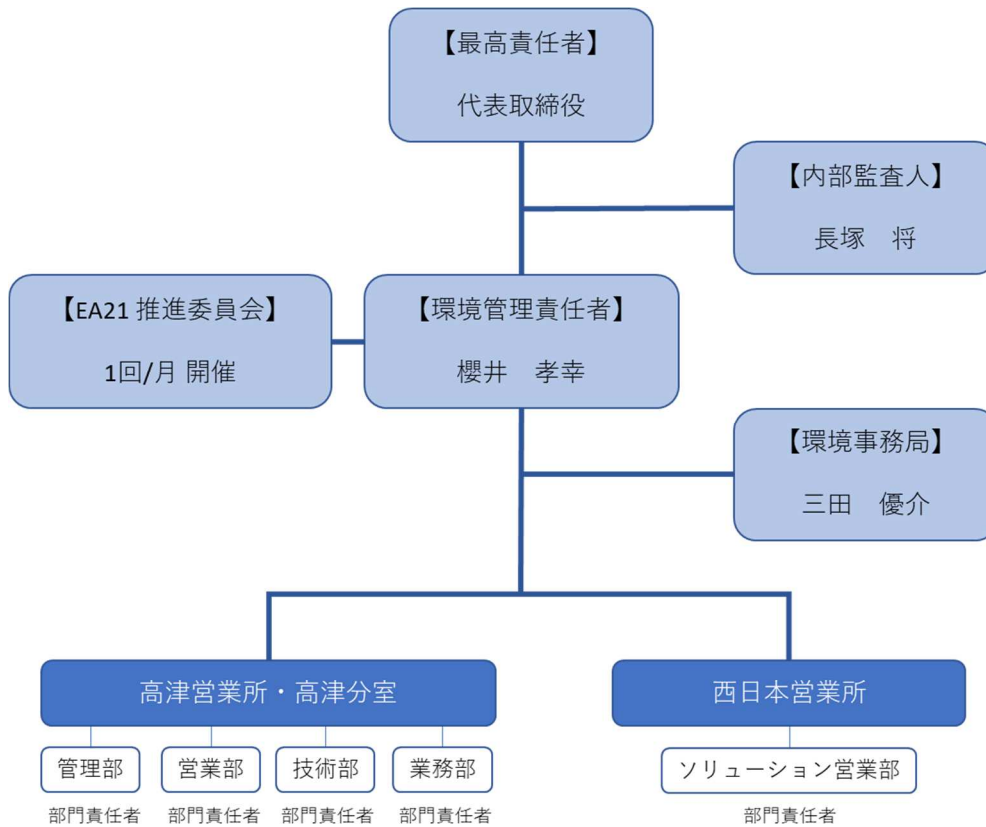


図1. EA21推進組織図

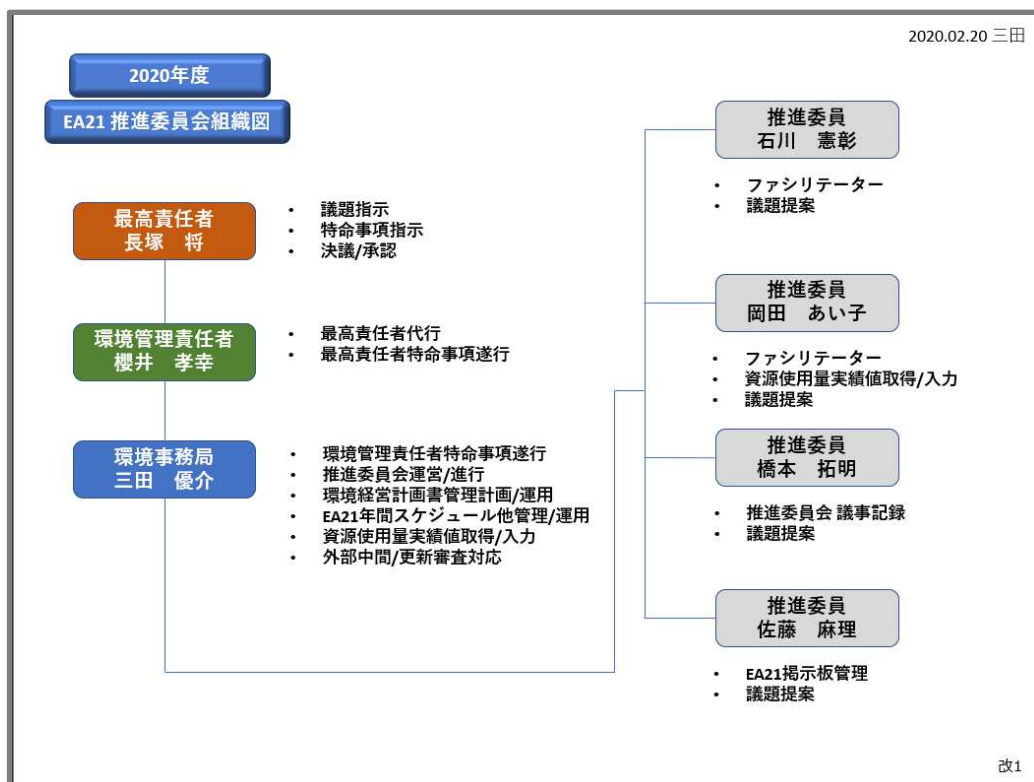


図2. EA21推進委員会組織図

4. 環境経営目標とその実績(環境負荷実績と環境目標比較)

1. 過去5年間の三大環境負荷の実績

表1. 過去5年間の三大環境負荷の実績

	61期 2015年	62期 2016年	63期 2017年	64期 2018年	65期 2019年
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	18,797.00	17,346.00	18,477.00	17,416.00	15,481.00
焼却ゴミ排出量(kg)	105.00	132.00	132.57	133.95	158.55
水使用量(m ³)	52.00	65.00	64.00	84.00	89.00
備考(変更点)		10月より 高津分室稼働			

※第65期(2019年)の二酸化炭素の調整後排出係数は、平成28年度東京電力エネルギーパートナー(株)の「0.474kg-CO₂(高津営業所、高津営業所 分室)」、関西電力(株)の「0.493kg-CO₂(西日本営業所)」をもとに算出。

2. 主要な環境経営目標と環境負荷・実績

66期(2020.01.01~2020.12.31)の環境経営目標、削減目標を下記の通りに定め、活動に取り組みました。

表2. 主要な環境経営目標と環境負荷実績

環境経営目標項目	単位	63期	65期		66期		調整後排出係数	67期	68期	69期
		2017/01~2017/12 基準年度	2019/01~2019/12 目標	実績	2020/01~2020/12 目標	実績		2021/01~2021/12 目標	2022/01~2022/12 目標	2023/01~2023/12 目標
①【二酸化炭素の排出抑制】										
二酸化炭素の排出量 調整後排出係数 【H28年度版採用】 ・東京 0.474 kg-CO ₂ ・西日本 0.493 kg-CO ₂	kg-CO ₂ /売上	22.14	21.32	24.08	21.03	19.47	調整後排出係数 【H30年度版採用】 ・東京 0.455 kg-CO ₂ ・西日本 0.334 kg-CO ₂	19.78	20.09	20.40
総量データ	kg-CO ₂	15,143	15,143	15,481	15,143	18,404		17,838.44	18,117.16	18,395.89
削減率	%	-	-3.7	+11.46	-5.01	-7.42		-	67期比 +1.02	68期比 +1.02
②【焼却処理廃棄物の排出抑制】										
焼却処理廃棄物の排出量	kg/売上	0.19	63期維持	0.25	0.18	0.22		0.25	0.25	0.26
総量データ	kg	132.57	132.57	158.55	125.59	196.12		272	281	286
削減率	%	-	-	+31.58	-5.30	+22.22		-	67期比 +1.03	68期比 +1.02
③【水資源投入量の抑制】										
水資源投入量	m ³ /のべ人数	0.40	63期維持	0.43	0.40	0.42		0.51	0.54	0.56
総量データ(参考)	m ³	64	-	89	-	92		-	-	-
削減率	%	-	-	+7.50	63期維持	+5.00		66期継続	67期比 +1.06	68期比 +1.04
④【延べ人数】										
	人	27	-	20	-	20		21	21	22

5. 二酸化炭素の排出抑制

【取組み内容】

- ①サーキュレータの使用の徹底と室温の適正化
- ②作業場と事務所間の仕切りの検討
- ③離席時のモニター電源OFF
- ④エアコンの清掃
- ⑤トイレの便座ふた閉めの励行

表3. 二酸化炭素排出量の基準・目標・実績値

	2017年 排出基準値	2020年 排出目標値	2020年 排出実績値	評価
kg-CO ₂ /売上 削減率(%)	22.14 -	21.03 (-5.00)	19.47 (-7.42)	○
kg-CO ₂ 総量データ 増減比(%)	15,143.00 -	15,143.00 (0)	18,404.00 (+17.71)	

【評価】

目標達成 「コロナ禍により弊社取扱の商品需要が爆発的に増加⇒売上原単位 増」
kg-CO₂総量データが目標値に対し+17.71%であるにも関わらず排出実績値が
-7.42%で○評価となったのは、母数である売上原単位がその差分を上回ったため。

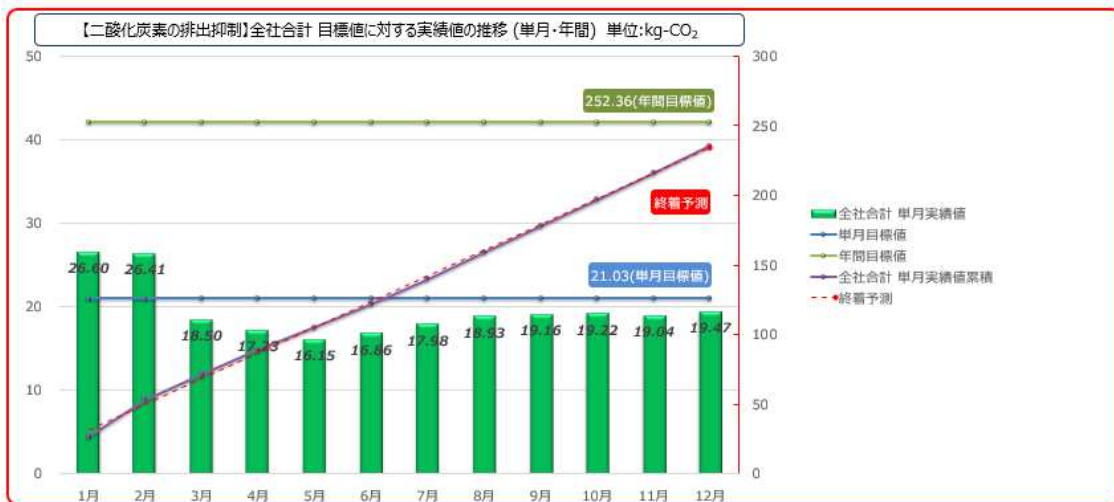


図3. 目標値に対する実績値の推移

- ①サーキュレータの使用の徹底と室温の適正化 「○」
- ④エアコンの清掃 「○」

過ごしやすい時間が年々短くなり、その反面エアコンの稼働時間が長くなってきている印象です。

必然的にサーキュレータとエアコンの同時運転の重要さを認識し、エアコン本体の冷暖房能力と運転効率を高いレベルでキープしなければなりません。エアコンの温度設定(夏季27℃以上、冬季20℃以下)は例年通り励行されていますが、今年はエアコン清掃と合わせてサーキュレータ(計9台)の清掃も行いました。想像以上にゴミやホコリがファンに付着しており、機器の運転効率向上と無駄なエネルギーを使わない事、そして衛生面から見ても非常に有効であると捉え、来期も継続して適正な温度設定並びに機器清掃活動を続けていきます。

②作業場と事務所間の仕切りの検討「×」

建物内でも足元が冷えるので、本格的に冬季を迎える前に対策を完了したかったのですが…
新型コロナウイルスの流行拡大に伴い弊社からの出荷ボリュームが前年同月の3倍程度に爆発的に増加したためにその対応に追われ、計画が頓挫しました。

テレワークの推奨や他人と機器を共有しないこと、また衛生的な見解からヘッドセット本体並びに肌に直接触れる消耗品群のオーダーが増えた事が出荷増の大きな理由です。

8月から自社新館が立ち上がったこともあり、自社内在庫や部品類の2Sを済ませてから仕切りの施工に着手と計画していましたが、2Sどころか足の踏み場も無い程の物量を抱えざるを得ず、今年度の本項の評価は×。来期への繰り越し案件と致します。

③離席時のモニター電源OFF「○」

2020年度は新入社員が3名入社しました。各人とも主業務でPCを使用していますが、新人教育の際にこの項目の目的を教育した甲斐もあって、全社員問題なく励行されていると判断します。

⑤トイレの便座ふた閉めの励行「一」

11月から、使用後はフタを閉めて洗浄するようにと励行の掲示物を貼り出しました(下図参照)。

細かい内容ではありますが、新型コロナウイルスの感染拡大を少しでも防ぐためと、何より温水便座の消費電力を15%程度削減※出来るのは効果が大きいと判断したためです。

活動を開始してからまだ間もないので定着したかの判定は出来ませんが、平時における温水便座の8時間休止機能の活用継続とともに、さらなる二酸化炭素排出量の抑制に繋がられる様、また新型コロナウイルスの感染予防として、来年度も活動を継続していきます。

(※参考元:東京電力エナジーパートナー)



図4. フタを閉めて流しましょう励行掲示

6. 焼却処理廃棄物の排出抑制

【取組み内容】

- ① 廃棄物の分別化の徹底
- ② コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用
- ③ ミスプリ防止のために、使用前・後の設定確認
- ④ 広告FAX送付の停止
- ⑤ ゴミ出しの当番制の実施
- ⑥ 長期在庫商品の廃棄量削減

表4. 焼却処理廃棄物の基準・目標・実績値

	2017年 排出基準値	2020年 排出目標値	2020年 排出実績値	評価
kg/売上 削減率(%)	0.19 -	0.18 (-5.26)	0.21 (+10.52)	✖
年間排出量 kg(参考)	132.57	132.57	196.12	

【評価】

削減目標未達成

各取組内容は○評価も、燃えるゴミの排出量が高止まり。



図5. 目標値に対する実績値の推移

① 廃棄物の分別化の徹底「○」

今年は新入社員が3人増えた事と、新型コロナウイルスの感染拡大のため通常は客先回りをしている営業部が外出を控えた事で、一日のうち社内に滞在する人数が通常期の1.5~2倍程度に増えました。また、他社製品の仕入れ物量も例年の3倍程度に増加したこともあって、比例して焼却処理廃棄物の排出量が増加しました。1,2月は前年の大掃除分、3月以降はコロナの影響であり、あくまで数値目標は未達成が真実ですが、今年の実績値は特例と考えるべきと捉えます。

これに伴い、廃棄物の分別も疎かになるかと思いきや、そこはしっかりと分別廃棄が実施されており、これまでと何ら変わらない(=今までの分別廃棄文化が定着している)ことが確認できて良い意味で力が抜けました。習慣になるまでは時間が掛かったとしても、習慣になってしまえば自然と判断・立ち居振る舞いが出来るものだという好事例を垣間見た瞬間でもありました。

ただゴミ箱に入っているものは問題ないのですが、ゴミ箱に入る直前の状態、所謂「チョイ置き」が散見されましたので、今度はこちらの問題をどう習慣づけるかが悩みどころです。

②コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用「○」

PCからの印刷や、コピーを取る際には裏紙を優先的に使用しています。

また、枚数が多くなるときは両面コピー機能を活用するなど、紙資源の使用量削減に努めています。現在でも裏紙を優先的に使うだけでなく、不要紙を積極的に裏紙用へ回すなどしています。

③ミスプリ防止のために、使用前・後の設定確認「○」

昨年度に引き続き、更なる定着化を図るため複合機への注意書きの掲示を継続しています。

リセットを掛けなかったことによる不必要な枚数のコピーを防止するとともに、今年度は給紙トレイの設定リセットをしていなかったために間違った用紙へコピーしようとしたものを防止できたという声も上がりました。設定を変更した後は無意識にでもリセットを掛ける習慣を付けられるよう、今後も継続して活動していきます。

④広告FAX送付の停止「○」

FAXは通常業務でも使用する機能のため完全に停止させることが出来ませんが、不要な広告の受信を削減(=コピー用紙の無駄削減)すべく「今後配信不要」の意思返信を継続実施しています。

なお、ここで届いた不要FAXの紙も、②の裏紙再利用へ回しています。

⑤ゴミ出しの当番制の実施「○」

前期から、毎週のゴミ回収とゴミ出し(焼却処理廃棄物と紙資源)を輪番制としました。

実際に自分でゴミ収集から排出という流れを経験してみると、分別が曖昧で混在していると不要な分別の手間が掛かることを理解し、それを通して自分がゴミを捨てる時にはより一層分別に気を付けようという意識付けにもなりますので非常に有意義な活動です。来期も継続して活動していきます。

⑥長期在庫商品の廃棄量削減「○」

本年度は長期在庫による製品の廃棄はありませんでした。

よって廃棄量「ゼロ」として、○評価とします。

7. 水資源投入量の抑制

【取組み内容】

①節水に努める

表5. 水資源投入量の基準・目標・実績値

	2017年 投入量基準値	2020年 投入量目標値	2020年 投入量実績値	評 価
m ³ /のべ人数	0.40	0.40	0.49	✖
削減率(%)	-	'19実績維持	+22.50	
年間投入量(m ³)	64.00	89.00	97.00	(参考値)

【評 価】 目標未達成

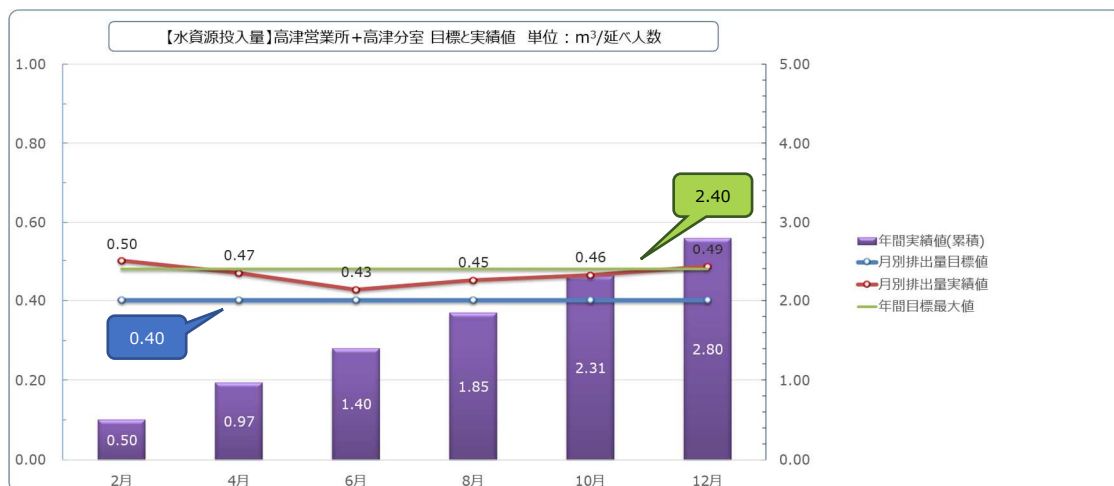


図6. 目標値に対する実績値の推移

①節水に努める「○」

前期同様、水使用量はのべ人数を原単位としています。大阪営業所はビル内共用の水廻りのため自社に限定した実績値取得はできません。そのため目標値と実績値の取得は高津営業所のみです。

今年は特に、新型コロナウイルスの感染拡大予防のために手洗い/うがいを励行したことと、既存の顧客や新規顧客への訪問を控えたこともあったために社内滞在時間が増え、それに比例して水使用量が増加するものと予測していました。しかし結果は予想とは異なり、通常例年通り程度の使用量実績値となりました。これは社内滞在社員の水使用量の増加と、テレワーク運用開始・推奨による社内滞在人数の減少がほぼ相殺されたものと分析します。

また、7月には高津営業所の蛇口交換を行い、混合水栓をツーハンドルからシングルレバータイプに交換しました。見た目がスタイリッシュになっただけでなく、絶妙な力加減で閉めないで水漏れを起こすので気を使っていたものが、一発で止水するようになりました。


古くても修理しながら長く大切に使うことと、イニシャルコストが掛かっても新品に交換してその手間を抑えるのとどちらが良いのか…？永遠の課題です。

8. 化学物質の管理の徹底

【取組み内容】

- ①ヘキサンの適正管理・使用記録
- ②共晶はんだの計測と適正管理

表6. 化学物質管理の目標と実績

	2020年度目標	2020年度実績	評価
活動内容	ヘキサン、共晶はんだの適正管理の実施	ヘキサン、共晶はんだの適正管理の継続	

【評価】 **目標達成**
管理状況は問題なし。如何にヘキサンを適切かつ早期に消費するか。

①ヘキサンの適正管理・使用記録「○」

既にヘキサンからエタノールへの切替は完了しています。ただし元々在庫として持っていたヘキサンの在庫量が今年度では完全にゼロにはなっておらず、ようやく来年度で使い切りが見えてきた状況です。ヘキサンは、洗浄力がエタノールより強力ですがその分シンナー臭が強いので、室内での使用時には必ず換気が必要になります。

部品/製品はエタノール、機器や壁/床清掃にはヘキサンと使い分けをしていますが、無駄使いや在庫破棄をするという意味ではなく、出来るだけ早期にエタノールへの完全切替が出来るように引き続き適正管理・記録に努めます。

②共晶はんだの計測と適正管理「○」

共晶はんだはごく少量ですが試作・改良・試験等に使用します。

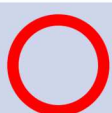
鉛フリーはんだは共晶はんだと比較すると値段と融点の関係から即時完全切替とはいきませんが、今後も継続して計測と管理を実施し適正使用に努めます。

9. 製品に関する環境配慮

【取組み内容】

- ①箱エコ推進の継続・エコ梱包の周知広報
- ②不具合対策報告書の運用(旧情報処理票)
- ③RoHS2対応のための調査
- ④取扱説明書の廃止の実施(HPへの掲載)

表7. 製品に関する環境配慮の目標と実績

	2020年重点目標	2020年実績	評価
活動内容	RoHS2対応のための調査	RoHS2対応のための調査の実施	

【評価】

目標達成

Win-Winの関係とはこのことか(箱エコ推進)。

不具合対策報告書の定着には時間が掛かる(不具合対策報告書)。

①箱エコ推進の継続・エコ梱包の周知広報「○」

従来より継続している個梱包箱の削減活動です。今年、箱エコ数は約7,600箱を達成しました。

これまでは数量のみのウォッチでしたが、9月度からは削減した重量と金額も環境経営計画書に参考値として盛り込み、3つの数字で実績をフォローしています。

この金額はあくまで箱単価のみであって、実作業工数や保管工数等は含んでいませんが、それでも数字で見ると改めてその効果の大きさに驚かされます。実際に出荷した客先より、開梱の手間や梱包材の処理の手間が省けるので助かるといった嬉しいお言葉もいただいたこともあり、また客先におけるゴミ排出量の削減に繋がる活動だと自負し、来期も活動を継続していきます。

②不具合対策報告書の運用「-」

本項は発行件数カウントのみのためここでは評価判定しません(別に定める規定による)。

3月からフォーマットを変更して、なぜなぜ分析の流れをより明確にしたことと、対策実施後も一週間の時間を置いてから再確認することで対策効果の定着の確認が取れるものとなりました。

このことによって、その場限りの対策ではなく再発や類似の発生予防まで含めた効果的な対策がとれるようになりました。来期は発行件数のウォッチとともにフォーマットの熟成を図っていきますが、これまでやった事が無い手法であることと、どうしても「めんどくさい」「誰々が悪い」「人は間違えるものではないから対策できない」という結論に性急に行き着こうとするところがあるので、人を責め立てて悪者にするものでは決してないという事を経験を積みながら一から教育していく必要があります。

③RoHS2対応調査「○」

自社製品の構成部品のうち、RoHS2に該当する物質の使用が無いかの調査を自主的に着手しました。調査にあたってはメールを主なツールとして使用していますが、サプライヤによってはFAXでしか対応出来ない、またはRoHSという言葉そのものを知らないというケースもあり、計画以上に時間を要しています。海外へ輸出する自社製品はありませんが、今期の調査率はおよそ40%。来年度も活動を継続し調査率100%を目標に根気強く取り組んでいきます。

④取扱説明書の廃止の実施「○」

紙使用量の削減を第一目的として、一昨年から活動を開始しました。

自社製品においては2019年度は約23,000台、2020年度は約32,000台の出荷実績がありますので、同梱していた取扱説明書も同じ枚数だけ削減できたこととなります。書類作成のコスト削減、社内管理コストの削減、さらに同梱する作業の削減と、良いこと尽くめの活動結果となりました。

さらに副次的効果として、新製品や仕様及びモデルチェンジ等が発生した際にもタイムラグ無く最新情報の公開が可能になりました。来期も継続していきます。

なお、取扱説明書は既に自社HPからダウンロードできる体制が整っており、製品に同梱の「ご利用の手引き」の中でご案内済です(下図参照)。

本項は10-①のホームページのリニューアルと紐づけ、来期も継続していきます。



図7. ご利用の手引き




図8. 自社HP(<https://nagatsuka.co.jp/>)

10. 業務におけるQCDの向上

【取組み内容】

- ①ホームページのリニューアル
- ②電子タグによる入出荷管理の研究
- ③メールサーバ、Webサーバ、データサーバのクラウド化検討
- ④自社製品パッケージの見直し
- ⑤全体会議でEA21活動状況を推進委員同席で報告

表8. 業務におけるQCDの向上の目標と実績

	2020年重点目標	2020年実績	評価
活動内容	電子タグによる入出荷管理の研究	電子タグによる入出荷管理の研究	

【評価】 **目標達成**
 HP上でYouTube・ブログ始めました。
 URL : <https://nagatsuka.co.jp/blog/>

①ホームページのリニューアル「○」

これまで、自社ホームページの更新は外部業者に委託していましたが、しかし新商品の発表、取扱説明書のアップロード、訂正など本年度はホームページの更新サイクルが例年と比較して非常に短かった事もあり反映までに時間がかかっていたことから、自社社員による管理に変更しました。タイムリーに更新をすることで常に最新の情報を外部に発信することが出来ますので経営のチャンスにつながる様、期待しています。

②電子タグによる入出荷管理の検討「○」

自社製品において、入荷/出荷及び棚卸時に電子タグ+ハンディスキャナーで管理することで入出荷/棚卸時の数え間違いや出荷品間違いなどの人的ミスの予防と、出荷時のシリアル番号取得のためにすべく着手した項目です。しかし検討を進めた結果、以下事由により検討中止という判断に至りました。

- 1) タグを埋め込むための射出成型金型の改造が必要であること(費用対効果)。
- 2) 物理的に電子タグを埋め込めない製品との管理の一本化が不可能であること。
- 3) もともとシリアル管理外である製品も包括して運用せざるを得ず、結果として製品コスト増になること。

8月に検討中止した後はこれに代わる項目として、④自社製品パッケージの見直しへとシフトしました。

③メールサーバ、Webサーバ、データサーバのクラウド化検討「○」

昨年度より、社内の各データの保存先をローカルHDDからクラウド化しましたので、実績としては”済”です。この目的は主に以下の2点です。

- I)クラウド化することにより全社員が最短で最新の情報にアクセスすることが可能になる。
- II)有事・災害発生時のデータ遺失を予防する。

1)これまで社内のデータは実体サーバ内のローカルHDDに保存・管理していましたが、社内にいる社員は常に最新情報に触れられることになりましたが、特に営業部門においては客先で即時決断を求められるような場面にあっても逐一電話問合せを行い、最新情報を確認する必要がありました。

これでは折角の営業のチャンスを逃す事にも繋がりがねないと考え、社内データをクラウド化し、全社員が常に最新情報を閲覧出来る環境と、営業部門においては各自スマートフォンを所持することによって問い合わせをせずとも最短で最新の情報が入手できる環境を整えました。

結果、飛躍的に業務効率と情報正確性が向上し、最新情報を全員が共有できるメリットを大変強く感じています。クラウド化は今期で完了しましたが、来期は維持向上を図る事と、メンテナンスを含む目的で本内容を継続とします。

2)有事・災害発生時のデータ遺失を予防する

日本各地で甚大な被害を出した2019年10月の台風19号。弊社においては、幸いにも設備や人的な被害はありませんでしたが、多摩川本流に極めて近い立地ということもあって万が一の多摩川の氾濫、水害被災の防衛策として実体サーバを近隣の社員が引き上げ、自宅に退避させた実例がありました。この経験を踏まえてクラウド化の動きが加速した面もあります。

情報も会社の資産であると捉え、上記1)と関連して、今後もクラウド版のデータ保守管理に努めます。

④ 自社製品パッケージの見直し「-」

“電子タグによる入出荷管理の検討”から移行した項目で、9月から活動を開始しました。

目的は以下の通りです。

- I) 自社製品の社内在庫管理の適正化
- II) 受注から出荷に至るまでのリードタイム短縮

1) 自社製品の社内在庫管理の適正化

従来は、トップ部(右図A)と、コード部(右図B)を顧客から注文を受けた後に弊社内で接続した上で出荷していました。

これは、接続部(右図C)の差し込みが甘いために送受話不具合が起きたことの対策によるものです。

しかしながら昨今、弊社製ヘッドセットの使用方法が主要な顧客には十分に知れ渡っているということと、納品後に抜き差しを頻繁に行う顧客においても差し込み不十分によるトラブルは発生していないこと、また自社HP上で情報を発信できるようになったことを鑑み、トップとコードを接続しない状態での納品荷姿の検討に入りました。

これは自社内でトップとコードの夫々を出荷準備完了状態で管理出来ることとなりますので在庫の見える化と2Sにも繋がります。今年度は実際に対応方法を検討することとし、来年度4月開始を目途に、関係部門と調整の上実行に移ります。

2) 受注から出荷に至るまでのリードタイム短縮

従来はトップ部とコード部夫々単品の状態で管理しており、注文を受けるまではどの組み合わせになるか分からないために初動が遅れ、後に続く工程の長さも相まって急いで作業しなければならないケースもあり、間違いの元と懸念がありました。

トップとコードを接続しない状態での出荷が可能になれば、あとは既にパッケージングが完了している製品を梱包するのみとなりますので、受注から出荷までのリードタイムを劇的に短縮(目論見では1/2)することができます。

時間に余裕を持った作業が出来、またリードタイムの短縮は単位時間あたりの作業量の増加にも繋がりますので、更なる経営のチャンスに繋がるものと捉え、来期には正式化すべく活動を継続していきます。



図9. 自社製ヘッドセット接続状態

11. 5S・4定の実施

【取組み内容】

- 1)商品・部品の整理整頓/定置定物化
- 2)朝掃除後の床磨きの実施

表9. 5S4定の実施の目標と実績

	2020年重点目標	2020年実績	評価
活動内容	商品部材の2S2定の実施	商品部材の2S2定の実施	

【評価】 **目標達成**
 図らずも、定着度合いを見極める良い一年になった。

1)商品・部品の整理整頓/定置定物化「○」

8月に新館が完成したことに加え、コロナ禍の影響で5～10月頃まで一時的に煩雑になり、商品部材の所定場所以外への暫定置きが発生や2Sに着手出来なかった時期もありましたが、12月末現在はすっかり落ち着きを取り戻しています。特に今年はレギュラーとイレギュラーが入れ替わるほどに混乱した一年となりましたが、振り返ってみると2Sの習慣が定着していたからこそ比較的短期間(約2か月)で社内が元の姿に戻ったと評価できると捉え、目標達成「○」とします。ただしこれは本来の目的の2Sの実施とは違った意味での達成評価ですので、本項目は来期も継続として引き続き活動していきます。

2)朝掃除後の床磨きの実施「○」

2か月に1度、高津営業所内の床面をスチーマーを利用して床磨きを実施しています。

コロナの影響で4月計画分はいったん中断としましたが、それ以外の5回は計画通り実施されました。今年は2S2定にも関わるところで、床面の損傷したラインテープ剥がしも実施し、ここで先述のヘキサンが活躍してくれました。来年早々にはまた新たなメンバーを迎え入れることもあって営業所内のレイアウトが大幅に変更される予定があります。

こういう時でないデスクもなかなか動かさないので、レイアウト変更時にも改めて床磨きを実施いたします。

自分たちで綺麗にすると汚れ落としに苦勞するのを理解すると同時に、綺麗をキープしようという心持にもなりますので4Sにも繋がる活動だと自負し、来期も継続して活動していきます。

11. 環境関連法規制の順守状況

① 当社に適用となる主な環境関連法規

適用法令	該当する活動	遵守確認
<ul style="list-style-type: none"> 川崎市公害防止等環境保全に関する条例 大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する規則 	<ul style="list-style-type: none"> 事業系一般廃棄物等の排出方法 生ごみの適正処理、環境洗剤の使用 事業系廃棄物発生抑制、再使用及び再利用の促進と減量 廃棄物分別化の徹底 	
<ul style="list-style-type: none"> 消防法 	<ul style="list-style-type: none"> 5S活動(保管庫の適正管理) 管理責任者名の明記、使用手順書による取扱 消火器の設置 	
<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法 	<ul style="list-style-type: none"> 排気装置の点検 専用洗剤の用意と手洗いの励行 	
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の分別化の徹底 廃棄物処理業者との委託契約、契約終了後の保管 マニフェストの発行、回収の日程管理・保管並びに管理表報告書の提出 	
<ul style="list-style-type: none"> フロン類の仕様の合理化及び管理の適正化に関する法律 	<ul style="list-style-type: none"> 業務用エアコンの簡易点検 点検及び整備に関わる記録と保存 	

② 外部からの苦情などの受付状況及び対応の結果

過去3年間、法令に対する違反はありませんでした。
 同様に、関係機関や周辺地域からの苦情・指摘・訴訟等もありませんでした。

12.代表者による全体の取組状況の評価と見直し

【はじめに】

2020年(第66期)は、なんといっても新型コロナウイルスの発生と感染拡大に翻弄された一年になりました。弊社全社員が一丸となって感染予防に努めた結果、12月末時点で幸いにも自社内では陽性者並びに感染の疑いのある社員は認められませんでした。が、全世界的に見ると未だに陽性者数は増加の一途をたどり、収束という先が見えない中にあります。

エコアクション21の活動及び自社業務においてもかつてないほどの異常事態が続き、計画進行の一時中断や遅延、計画変更等様々なケースを一気に経験した一年でもありました。その中でも可能な範囲で出来る限りの活動を継続して来られたことは、全社員のエコアクション21への参加意欲、これまでの習慣、目的の理解があつてこそそのものだと思っております。そういった意味では異常事態が発生しても全員が冷静に対応出来るということが今年の活動で改めて再認識させられ、ほっと一安心出来たところもあります。

【環境経営計画について】

一時的に活動を停止せざるを得ない時期もありましたが、それを除けば大筋でほぼ計画通りに進行したと評価します。但し弊社が取り扱う製品群の特性上、新型コロナウイルスの発生と感染拡大に伴い日本国内全域において需要が爆発的に増加し、過去に類を見ないほどに取り扱い物量が増えました。これは同時に弊社から排出する主にビニールテープや梱包袋などのプラスチック廃棄物類、海調品で使用する段ボール資源ごみ類が増加することに繋がりました。評価判定の基準として売上原単位を採用しているために、売上高に比例して排出量が増加しても評価としては「○」となりますが、廃棄物の分別と排出量の削減は引き続き監視していく必要があります。

特に焼却処理廃棄物の排出抑制(焼却処理廃棄物の排出量)については、毎月目標と実績を照らし合わせてのフォロー会議を開催していますが、評価判定基準(数値目標)が適切であるかどうかの結論が出ていません。来期計画はこの点の見直しも踏まえ、基準と目標を設定するように見直ししてください。またこれ以外では、既に十分に定着しており、外しても問題が無いと判断できる項目についてはステップアップ出来るように新たな目標値を設定するか、或いは新たな活動項目を盛り込むかを検討してください。

【おわりに】

今年度は主力商品Enterpriseシリーズの保証期間延長、新製品P010とND77/Sの発表、終息となった製品の案内など、自社製品の出入りも激しい年となりました。自社HPのメンテナンスやアップデートを自社内で行えるようになったこともあつて来期はこれをきっかけに新たな経営のチャンスをつかめるよう、また新たな仲間も増えたことで更なる活動の継続・発展が出来るよう、ボトムアップも視野に入れて活動を継続していきましょう。

代表取締役
長塚 将